

CONTENTS COMBAT

2017.Apr.
No.493

5

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Tomoyuki Orimoto
©WORLD PHOTO PRESS 2017
※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集 / ModelGun】

008 特集 モデルガンジャンキーズ

010 “音と匂いと視覚と…五感で味わえるのがモデルガンの魅力です”

小林太三インタビュー

Interview with Tazou Kobayashi, The Living Legend of Model Gun

014 モデルガン発火を楽しもう!

022 TANIO KOBAYASHI GM7 & GM7.5

030 コラム「俺とMGC」

032 それぞれの指向で変わる モデルガンの魅力

040 軍装ファンとモデルガン

アクセサリとリプロパーツで好みのタイプに

042 そうだ、モデルガンを買おう!

ショップに聞く、モデルガンの楽しさ

044 モデルガン・メンテナンス講座

048 マイフェイバリット・モデルガン

050 ニッポンのモデルガンってスゲェんだぞ!!
(映画の中のモデルガン!)

052 モデルガン・カタログ

【第2特集 / トイガン】

064 Tokyo Marui Presents
THE ANOTHER STORY OF HK416 DELTA

072 東京マルイ
次世代電動ガン HK416 DELTA

●Photos&Text by Taku

076 WESTERN ARMS
STI TACTICAL 4.0 COSTA Ver.

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

080 WESTERN ARMS
SV INFINITY MIAMI-Tiki

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

083 WESTERN ARMS
HOAG GOLD CUP NATIONAL MATCH 6INCH BLACK EDITION

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

【第3特集 / ミリタリー】

060 ニッポンのカゴブ

088 The Equipments of the U.S. Force
【現用米軍装備カタログ】

PARACLETE 空軍支給 TAN & COYOTE BROWN 特集 Part.1

●解説: 松原隆 ●撮影: 山崎 学

117 Militaria Roundup!

WWII プリティッシュ・メイドとローカル・メイド装備 Part.1

004 COMBAT FRONT LINE

086 PROJECT NINJA

●morizo(東京装備BAKA)

098 NEW GENERATION STYLER

●fujiwara

108 サバゲ三等兵

●織本知之

112 WANCHER'S STYLE ●織本知之

114 ミリいじ技研 ●by Tomoyuki Orimoto

115 PRESENT

128 突撃!!ぴっちょりーな☆

146 トイガンニュース

146 東京マルイ デトニクス・シルバーモデル

147 WA SFA V10ウルトラ・コンパクト(オール・ブラック・モデル)

147 WA SVI スピードコンプHG《Ver. セレンディピティ》

148 タナカ H&K USPエボリューションHP

149 タナカ コルト・バイソン.357マグナム《2.5インチ“Rモデル”HW

154 兵装嗜癖 ●by fujiwara

156 DJちゅうの妄想雑記ノート

196 Goods & Accessory

200 中田商店グッズ

202 S&Grafグッズ

134 US SHOOTING LIFE

136 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting

射撃のススメ

アラフォーズ!

141 GAME OVER THE TOP

144 銀座ブレードショー

172 サバゲ三等兵APS編

174 東京フォールディングナイフショー

176 編集長日誌

177 バックナンバーリスト

178 ミリタリー・コレクション

180 レア・ミリタリー・コレクション

182 A STITCH IN TIME

183 爆裂祭

184 狩野健一郎のシネマ放浪記

185 狩野健一郎の新作DVD紹介

186 蛙のゆびさき

188 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

191 読者プレゼント応募方法

192 編集後記





モデルガンジャンキーズ

エアソフトガンと違い弾が出ないモデルガン。
でも、その魅力にはまっている人も増えてきている。
だって、弾が出ないじゃん。そんなモデルガンの楽しさとはいったい何なのだろうか？
様々な角度から、モデルガンの魅力・楽しさを再発見!!

MODEL GUN JUNKIES



音と匂いと視覚と…… 五感で味わえるのが モデルガンの魅力です

Interview with **TAZOU KOBAYASHI** The Living Legend of MODEL GUN

かつてはMGCで数々のモデルを生み出し、今も「タニオ・コバ」代表として意欲作の数々を送り出す、伝説のトイガン&モデルガンデザイナー、小林太三さん。イベントにもこまめに出店して、モデルガンの魅力を伝えながら「より皆に楽しんでもらいたい」と、新たなギミックの開発に余念がない。そんな「リヴィングレジェンド」にお話を聞きました。「タニコバさん、モデルガンの魅力はどこにありますか？」

機能が無いから友だちになれる

——「タニオ・コバ」製品をはじめ、モデルガンの人気は根強いんですね。なぜだとお考えですか。

人は、模型に実物への夢を求めているわけ。例えば船や飛行機の模型。これが縮尺が小さくなったから喜ぶるんじゃない。皆、出来ればその中に乗って操縦してみたいの。だから次第に模型に有線のコントローラーが付いたり、ラジコンになったりしたわけだね。つまり原寸にしたって縮小ものにしたって人間が模型に求めるものに違いはない。とにかくいじって動かしたいわけ。

ありがたい事に、鉄砲というのは原寸で持てるし家に置けるでしょ。内緒で机の引出しに入れておく事だって出来る。それで、夜にみんな寝静まってからこっそり出して実際に持ってさ、ニッと喜んだりして(笑)。

銃ってもともと「飛び道具」。本物は危険なものなんです。鉄砲を模型にする場合、その危険を取り除いた方がいい。極論をいえば「弾が飛ぶ」という機能が無いから、本来は武器である銃の「模型」と、誰もが友だちになれ

るんじゃないかな。私がモデルガンを作っているのは、そういう考えから来ています。

——小林さんがモデルガンを好きになったきっかけを教えてください。

きっかけは、フランスのアクション映画なんですよ。私が10代の中ごろは、ちょうど戦後間もない頃。巷は完全にアメリカ映画が席卷していた時代でした。特に西部劇。もちろん私も映画館に通いつめました。

ところがね、西部劇の銃撃戦は、弾は見えないのは仕方ないとして、シングルアクションアーミーが主流だから、薬莖が出ない。出るのは銃口からの煙くらい。しかも単発でしょ。どこか迫力がない。さらに当時のアメリカ映画のBGMはフルオーケストラが定番で、銃の発射音はその大音量に負けちゃう。じきに飽きちゃったんだよ。

その一方で、場末の映画館でやっていたのが、モノクロのフランス映画。こっちはアメリカ程お金をかけられないからスケールは小さかったけど、出てくる鉄砲は本物だった。

そして何よりも音なんだよ！ 当時の映画製作は、ア

メリカは基本的に全部アフレコだったけれど、ヨーロッパ映画はロケ先での同時録音とアフレコの半々だった。すると何が起きるか？ 本来必要じゃない雑音、つまり薬莖が落ちる音が入るんだよ！ コンクリートの床と木の床に落ちる音では、薬莖の音がちゃんと違うし、カメラが撮る方向や、銃の種類、口径、銃口の向きによって発射音がちゃんと変わるの。何を撃ってもパキーン！と同じ音しかない映画とは雲泥の差だよ。

あと、BGMは私が好きなジャズ、それも当時まだ珍しいモダン・ジャズだった。ちょうどアート・ブレイキーというドラマーが出てきた頃で、彼が叩くドラムの音は鉄砲の音に似ててね、アメリカのフルオーケストラと比べると、発射音が活きるの。あとはジャズと同じくらい好きだった車やオートバイも出てきたし。

そうやってフランスのアクション映画から銃にのめり込んでいったわけ。

——映画の世界にご自身も入りたいと感じて、モデルガンにご興味を持ったんです。

映画の中のヒーローに憧れて自分がなり変わろうとし

た時、銃といった小道具が必要になる。ところが映画の中では弾が飛んでるかどうかなんて分からない。ただ煙と音と多少の火が出て、オートマティックの場合だったら機関部が動いて薬莖が出るのが見える。必須不可欠なこれらの要素をそろえたのが、モデルガンの世界なんだよ！

詩人の金子みすゞが「見えないものでもあるんだよ」って言ったけど、ぼくは全く逆だね。「見えないものは無くてもいい」。いらないんだ(笑)。

イメージの世界だから本物である必要はないの。でも、イメージの世界を体験するための小道具として、やっぱり同じ三次元のもの自分の目の前に欲しいじゃない。

そうなるとうちの人生のコースは決まっちゃった。気がつけば凄い映画好きのモデルガン屋になっていたわけ。興味がある職種もほかにはあったけど、縁もあつたんだね。そういえば、当時入社したいと思っていたある自動車メーカーの幹部と、後年になって話した時に「来てくれていたらよかったのに！」なんて言われたりもしたけどね(笑)。

——その後、MGCでガンデザイナーとして一世を風靡

MODELGUN JUNKIES CHAPTER.02

モデルガン発火 を楽しもう!

●Photos & Text: Ken NOZAWA

現在の日本のトイガン市場を見渡すと、言うまでもなくエアソフトガンが中心となっています。サバイバルゲームやシューティングといった遊びは市民権を得て、多くのファンを持ち、休日になるたび、それらを楽しむ人が大勢います。

振り返って見ると、エアソフトガン市場の発生と拡大は1980年代の初期に始まり、気づけば、そろそろ35年もの年月が過ぎる事になります。

さてさて。「1980年代の初期から……」と書きましたが、これは言い方を変えると、それ以前にエアソフトガンは無かったの

か? となります。もちろんそれ以前にも、現在のエアソフトガンの前身となる、小さな樹脂製弾丸を発射して楽しめる玩具はありました。ですが決してガンファンたちにとっての「主流」とは言えませんでした。当時ガンファンたちを熱狂させていたのはモデルガンでした。

モデルガン?

エアソフトガン全盛の今、「モデルガン」と言われても、その存在を知ってはいても、楽しさや魅力となると語れないガンファンも少なくないはず。

そこで、ここではモデルガン最大の魅力とも言える、発火によるモデルガ

ン遊びの世界を紹介していく事にします。

モデルガンってなんだ?

いくらなんでも「モデルガン」を知らない人はいない(よね?) ハズですが、ここではモデルガンの持つ可能性や魅力について知って頂きたいので、あえて「モデルガンってなんだ?」という、基礎の基礎から話をスタートします。

話を分かりやすくするためエアソフトガンとの対比となりますが、モデルガンとエアソフトガンとの最大の違いは、前者には弾丸発射の機能が無く、後

者には有るという点です。モデルガンとエアソフトガンは、どちらも実銃に似せて製造されているため、外観は同じでも内部のメカニズムは全くの別物となります。基本的にモデルガンの内部メカニズム(パーツ形状)は実銃に似せて作られており、特に近年のモデルでは、「寸法も形状も実銃と同じ」というモデルも登場しています。

一応のために説明しますが、実銃と同じ寸法、形状を持つモデルガンといっても、そこに危険性はありません。素材や強度が、実銃とは比べ物にならないほどモデルガンのそれは低いからです。

ここで、「モデルガンってなんだ?」ですが、「弾丸発射の機能は持たないが、外観も内部のパーツも、可能な限り実銃に似せて作られた玩具」と言えます。繰り返しになりますが、外観とパーツを実銃に似せても、強度的に、そして法的にも安全対策が成されており、危険性はありません。

1980年代初期までは、そんな玩具

(モデルガン)がガンファンたちの趣味を支え、夢を育む手伝いを担っていたわけです。

ただ、ここまでの話を聞いて、「弾丸発射できなくて、どうやって楽しむの?」という、根本的というか、そのものズバリの疑問が浮かぶエアソフトガンファンは大勢いると思います。そう思うのが自然です。銃の形をしなが

TANIO KOBAYASHI GM7 & GM7.5



迫力満点の 痛快ブローバックを体験せよ!!

“バンッ! ババンッ、ババババッ!”

撃発音とともにグアッとブローバック!

鋭く重いリコイルショックとともにカートリッジが宙を舞う!!

直後、ツーンとした火薬の匂いが鼻を刺激する。“気持ちイイ〜〜!”

火薬ならではの、迫力の撃ち味!! これは単なるノスタルジックな思い出じゃあない。

タニオ・コバ製モデルガン“GM-7”。現代モデルガンという新発想!!

面白さ、への探究心を作った、アクション派モデルガンの最高峰。

●Photos & Text: Tomo Hasegawa

それぞれの指向で変わる モデルガンの魅力

●Photos & Text: SHOTGUN MARCY

モデルガンのルーツ

日本純正の銃器玩具「モデルガン」が登場したのは、今から半世紀と少し前、1962年の事だった。この時から、というより、それ以前からモデルガンは火薬を使って撃つのが当たり前。一部例外が無かったわけではないが、リボルバーはもちろんの事、まだブローバックが存在しなかったセミオート型のモデルガンも、全て火薬を使って激発させる事を前提にしていた。その理由は、日本純正のモデルガンが誕生する以前の、輸入トイガン・ブームにある。

1950年代後半に入って、アメリカ、イギリス、イタリアなどから、続々とトイガンが輸入されるようになった。当時の日本は、空前のウエスタン・ブーム真っ只中で、人気があったのはSAA型やレミントン型のリボルバー。SAAのような外観でありながら、スイングアウト・タイプやトップブレイク・タイプなどという、変わったものも存在していた。

これらの中で、爆発的な売れ行きを示したのが、アメリカから輸入されたマテル社の「ファンナー」というSAA型トイガン。子供用にダウンサイジン

グされ、デザインもかなりアレンジされていた。このファンナーを、よりオリジナルのSAAに近いサイズとデザインに作り直したのが、「シューティンシェル45」。マテル・ファンナーの人気あまりにも凄かった事から、日本では「ニュー・ファンナー」「ファンナー大」「ファンナー・デラックス」などの名称で販売されていた。このトイガンをベースに、色を塗り替えたり、グリップをウッドに付け替えたり、果てはブラックホーク風のリアサイトをセットしたりしたのが、CMCやMGC。MGCはこの時、ベース・モデルと区別するた

めに「モデルガン」という造語を使い始めたと言われている。

日本の「第一次ガンブーム」は、ウエスタンに牽引されたブームで、セミオート型や近代型のSMGを元にした輸入トイガンも市場にあったが、残念ながらあまり人気が無かった。ヒューブレイの内部構造を大幅に作り直したMGCの「コマンダー」「ベレッタ」「P38」などが作られ、ごく短期間で発売禁止になった事が、モデルガン・ファンには比較的良く知られている。100連発の巻き火薬を使用するトイガンを、カートリッジ式に作り直したのだから、そのアイデアと情熱に、一ファンとして頭が下がる思いだ。

1960年代の初めに登場した、輸入トイガン改良モデルを経て、日本純正のモデルガンが誕生したのは1962年。ハドソンが生産し、ホンリ्यूウが販売した「モーゼル・ミリタリー」、MGCが生産販売した「ワルサーVP」がその先駆けだった。



上から、高級ガバメントの先駆けになったロッケン/リアル・マッコイズの「M1911」、亜鉛合金に匹敵する高比重樹脂で製作されたホビーフィックスの「メガウエイト・ガバメント」、色々な意味で日本のモデルガンに影響を与えたイタリア、エジソン社の「ジャガー・マチック」。180°回転するスライドストップが、マニュアルセフティになっている。

PART 1 火薬を使って遊ぶのが 当たり前だったトイガン

第一次ガンブームの頃に輸入されたトイガンは、ほとんどが火薬を使って発火させるタイプ。ファンナーやシューティンシェル45は、シール状の火薬粒をケースの後ろに貼って撃発させる。このケースには、スプリングが内蔵されていて、プラスチック製のビレット（弾頭）を差し込み、ハンマーの打撃で発射する。つまり、モデルガンとエアソフトガンの両方の特徴を備えていたわけだ。もちろん精度はオモチャのレベル。ビレットは、銃口を飛び出した時から、すでに放物線を描いて飛んで行くという程度のもので

しかなかった。このほか、100連発の巻き火薬を使うトイガン、鬼印のシート火薬を使うトイガンなども、どの輸入トイガンも、基本的には何らかの火薬を使って遊ぶオモチャだった。

シングルアクションにしる、ダブルアクションにしる、人間の指で操作するリボルバー型のトイガンは、初期段階からアクションがリアルだった。それに対して、火薬の圧力でブローバックするセミオートは、リアルなアクションを再現するのが難しい。この問題をユニークなアイデアでアレンジしたトイガンがあった。イタリアのエジソ

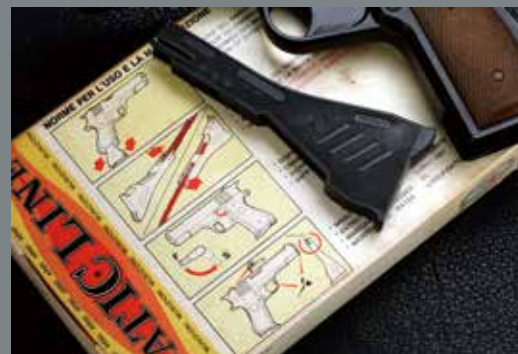
ン社が製作した「ジャガー・マチック」というトイガンだ。

ジャガー・マチックは、帯状に繋がった専用のキャップ火薬を使用する、ダブルアクション、ストライカー式のトイガン。トリガーを引くと、連動したパレルが前 (!!) に突き出し、トリガーとの接触が断たれると勢いよく後退して、火薬を叩く。2発目からは、パレルの後部にセットされた刃が撃ち終わったキャップを切断して、スライド後部の窓から弾き出す。つまり、エジェクトも表現されているわけで、子供用のトイガンとは言え、かなりリアルなイメージだった。

MGCのワルサーVP以後、フィンガー・アクション（スライド・アクション）が、セミオートのメカニズムとして一世を風靡した。ダブルアクション・リボルバーのメカニズムによく似たシステムだが、1950年代後半に輸入され

ていたジャガー・マチックのメカニズムやアクションが、大きな影響を及ぼした事が容易に推測できるだろう。また、専用のキャップ火薬を使用していた事、輸入トイガンの多くが金属だったのに対し、樹脂を素材にして作られていた事なども、後のモデルガンに

マニュアル兼用のパッケージ。マガジンの抜き方や火薬のセット方法が解説されている。



1. M1911型ではあるが、PPK/Sとほぼ同サイズのジャガー・マチック。ダブルアクション、ストライカー方式のトイガンだ。2. トリガーを引き切ると、パレルが一気に後退して専用のキャップ火薬を撃発させる。3. 帯状に繋がった専用キャップ火薬は、2発目以降パレル後部の刃にカットされて、スライド後部から弾き出される。



次世代電動ガン HK416 DELTA

TOKYO MARUI

●東京マルイ ☎03-3605-3312
<http://www.tokyo-marui.co.jp/>
●Photos&Text by Taku

米軍最強の特殊部隊の一つと言われているデルタフォースが使用するHK416シリーズ最新モデルが大人気発売中!!

己を極める 群雄割拠の 一騎討ち。



NEW GENERATION STYLER
TEXT : fujiwara[DAZZLED EYES DESIGNS.]
PHOTO : AYA